

防災気象情報に関するアンケート 結果速報(2013年12月)

2014年4月修正版

静岡大学防災総合センター

牛山 素行

<http://disaster-i.net/>

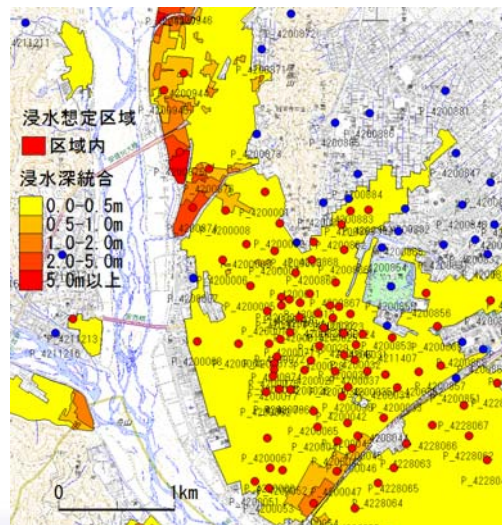
概要

- 近年整備が進む防災気象情報に対する利用者の認識に関する調査
 - 静岡大学防災総合センター牛山研究室が気象庁の協力を得て実施
- 調査対象
 - 2013年9月16日に大雨特別警報が発表された、福井県、滋賀県、京都府と、2012~2013年の間に特別警報等の情報が出ていない静岡県の在住者
 - これら各県の、(洪水)浸水想定区域周辺の在住者。
- 調査手法
 - インターネット社会調査サービスのgooリサーチを利用
 - 回答依頼メールは2013年11月21日に配信
 - 有効回答数は1192件(福井県260, 静岡県261, 滋賀県311, 京都府310)。

本調査の一部は、環境省環境研究総合推進費(S-8)、文科省科学研究費補助金「客観的根拠に基づく津波防災情報及び豪雨防災情報のあり方に関する研究」、文科省科学研究費補助金「平成25年台風26号による伊豆大島で発生した土砂災害の総合研究」、文科省社会的システム改革と研究開発の一体的推進事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」の研究助成によるものです。

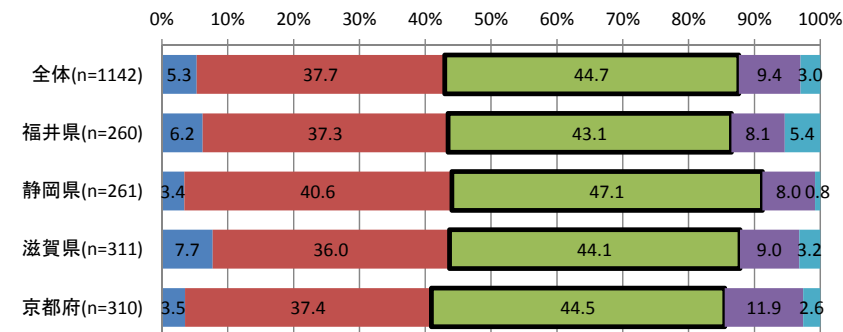
調査対象者の抽出方法

- Gooリサーチのモニターは居住地郵便番号の属性情報を持つ
- 日本郵便株式会社が公開している郵便番号-地名データを、東京大学空間情報科学研究センターの提供しているCSVアドレスマッチングサービスを通して、郵便番号の代表点に緯度経度を付加。
- 郵便番号の緯度経度データと、国土数値情報の浸水想定区域データを、GISソフトMANDARAを用いて重ね合わせ、郵便番号の代表点が浸水想定区域内に含まれるか否かを判定。
- 調査対象4府県の浸水想定区域内に含まれる郵便番号内に在住のモニターに依頼メールを配信。



気象警報の意味

気象庁から、大雨警報、暴風警報など、気象に関する警報が発表されることがあります。この「警報」とはどのような意味を持つ情報だと思いますか

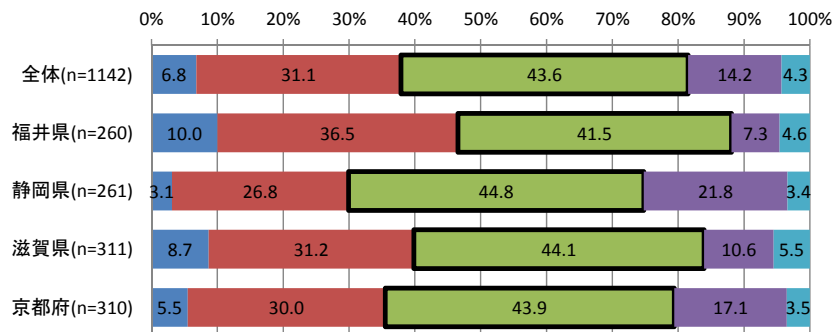


- 災害の起こる可能性は少ないが、注意を促す情報
- 災害の起こるおそれを注意する情報
- 重大な災害が起るおそれを警告する情報
- 重大な災害の起こるおそれが著しく大きいことを警告する
- 避難所への避難を呼びかける情報

• 気象警報の意味を正しく理解している回答者は44.7%

気象警報の地域区分

気象に関する警報は、どの程度の地域的な広がり単位として発表されていると思いますか

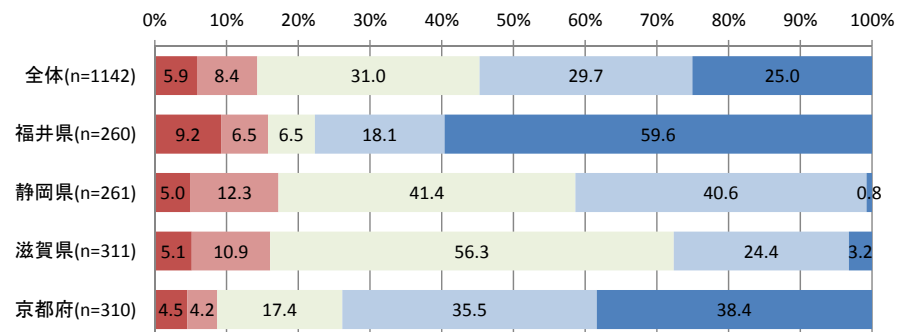


- 県単位くらい
- 県内を複数の地域に区分するくらい
- 市町村単位くらい
- 市町村内をさらに複数の地域に区分するくらい
- わからない

● 警報の地域区分を正しく理解している回答者は43.6%

認知されている警報発表回数と実発表回数の差

あなたのお住まいの市区町村には、今年1月から10月までの間に、大雨警報が何回出たと思いますか。覚えている回数を数字で記入してください

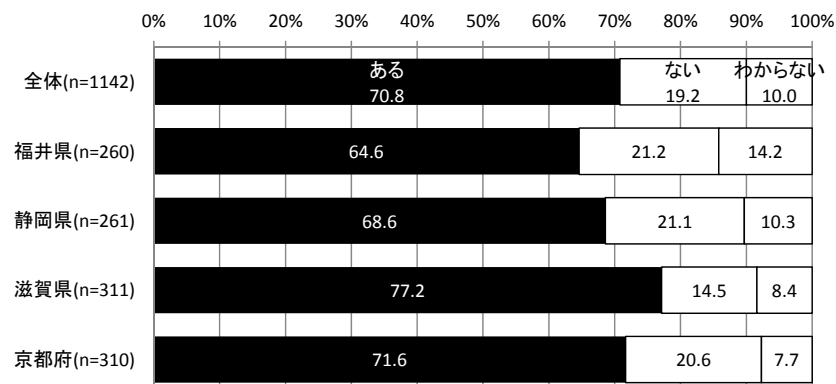


- +8以上(多く認知)
- +3~+7
- -2~-+2
- -3~-7
- -8以下(少なく認知)

● 警報発表回数を現実より多く認知している回答者は14.3%。
● 少なく認知している回答者の比率は府県により大きく異なる。

土砂災害警戒情報に対する認知

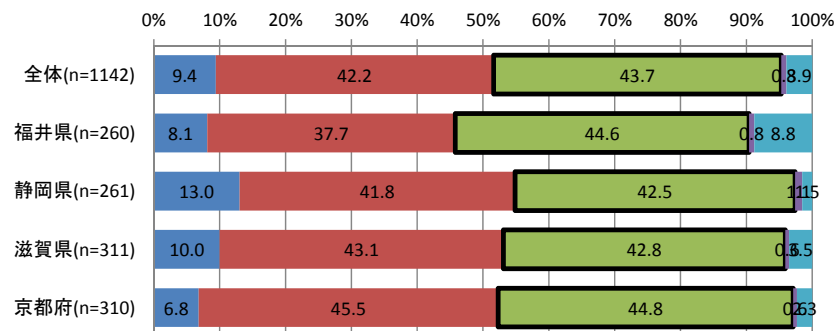
気象庁から、市町村程度の地域的な広がり単位として、「土砂災害警戒情報」という情報が発表されることがあります。「土砂災害警戒情報」という情報を見たり、聞いたりしたことがありますか。



● 土砂災害警戒情報という語を見聞きしたことがある回答者は70.8%
● 「ある」は滋賀でやや多く、福井でやや少ない

土砂災害警戒情報の意味に対する認知

「土砂災害警戒情報」とはどのような時に発表される情報だと思いますか

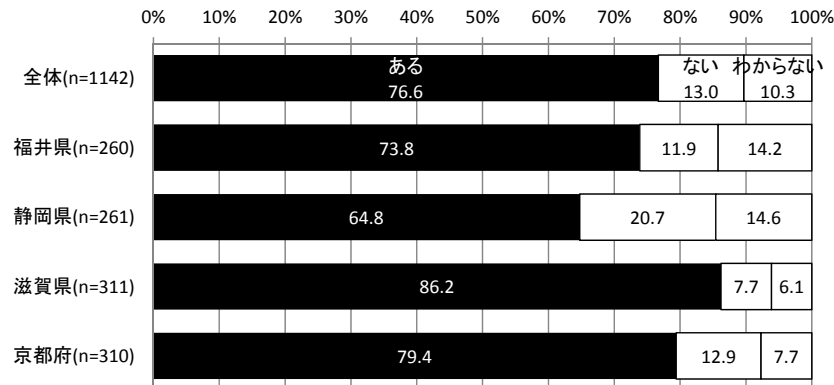


- すぐに土砂災害が発生するほどではないが、念のため注意した方がよい時
- 土砂災害が発生する可能性が生じた時
- 土砂災害が発生する危険度が高まった時
- 土砂災害が発生した時
- わからない

● 土砂災害警戒情報の意味を適切に理解している回答者は43.7%

大雨特別警報に対する認知

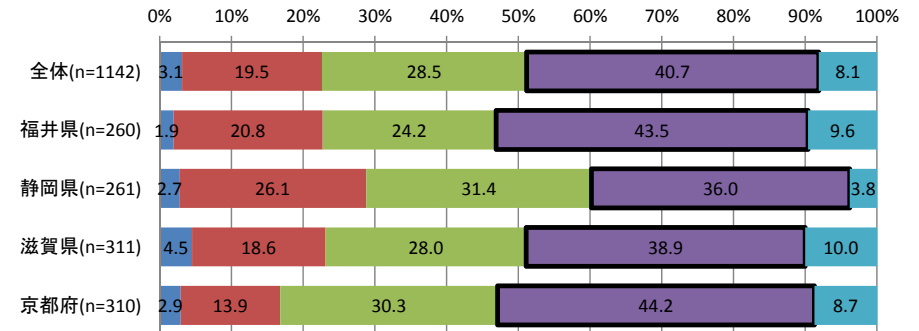
気象庁から、複数市町村程度の地域的な広がり単位として、「大雨特別警報」という情報が発表されることがあります。「大雨特別警報」という情報を見たり、聞いたりしたことがありますか



- 大雨特別警報という語を見聞きしたことがある回答者は76.6%
- 「ある」は滋賀でやや多く、静岡でやや少ない

大雨特別警報の意味に対する認知

「大雨特別警報」とはどのような意味の情報だと思いますか

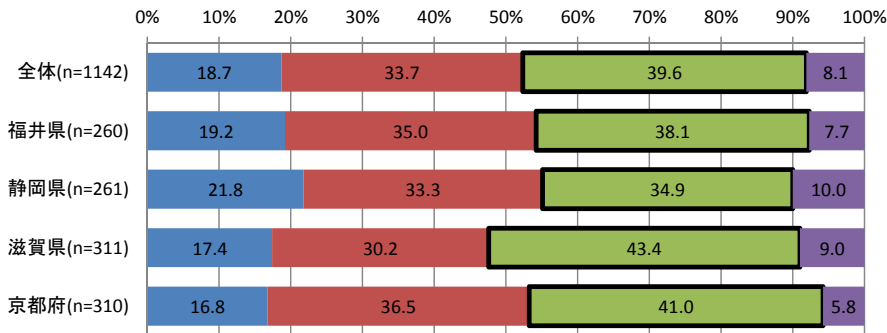


- 大雨による災害の起こる可能性は少ないが、注意を促す情報
- 大雨による災害の起こるおそれを注意する情報
- 大雨による重大な災害が起こるおそれを警告する情報
- 大雨による重大な災害の起こる恐れが著しく大きいことを警告する情報
- 避難所への避難を呼びかける情報

- 大雨特別警報の意味を適切に理解している回答者は40.7%

大雨警報の位置付けの変化に対する認知

大雨特別警報は今年8月から新設された情報です。この情報が新設されたことにより、従来からある大雨警報の位置づけはどのようになったと思いますか



- 従来より弱い雨の時に発表されるようになった
- 従来より強い雨の時に発表されるようになった
- 従来と変わらない
- わからない

- 大雨警報の位置づけが従来と変わっていないと正しく認知している回答者は39.6%
- 従来より強い雨の時に発表されるようになったと誤認している回答者が33.7%

大雨特別警報の発表条件に対する意見

10月16日に、伊豆大島で豪雨があり、死者・行方不明者40人以上に上る災害が起こりましたが、この時に大雨特別警報は出ませんでした。これは、この豪雨が狭い範囲で発生したため、大雨特別警報を発表する条件を満たさなかったためです。

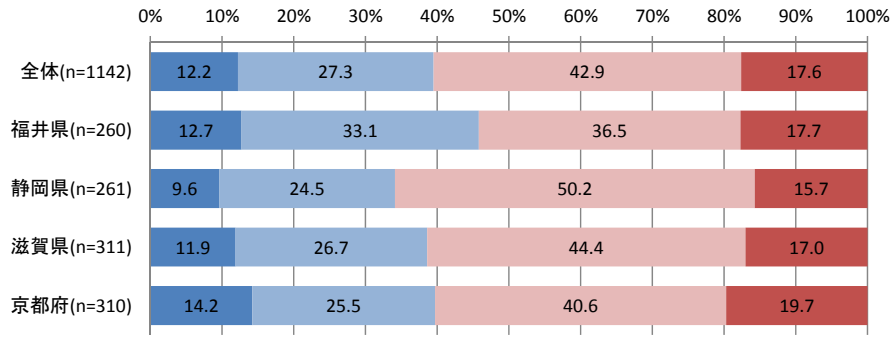
伊豆大島での災害を契機として、狭い範囲で発生する豪雨の場合にも大雨特別警報を出すべきだとの意見があります。

しかし、このように条件を緩和すると、大雨特別警報の発表回数が増え、出ても結果的に大きな被害が起こらないという、いわゆる空振りが増える可能性があります。現在の基準では、空振りとなる可能性はほとんどありません。

『空振りが増える』というデメリットがあっても、大雨特別警報の発表条件を、狭い範囲の豪雨の場合にも発表するように緩和すべきだと思いますか

大雨特別警報の発表条件に対する意見

『空振りが増える』というデメリットがあっても、大雨特別警報の発表条件を、狭い範囲の豪雨の場合にも発表するように緩和すべきだと思いますか



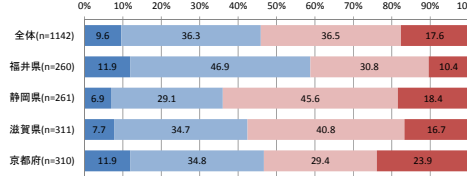
- 緩和すべきではない (=発表回数を増やすべきでない)
- どちらかといえば緩和すべきではない
- どちらかといえば緩和すべき
- 緩和すべき (=発表回数を増やすべき)

- 大雨特別警報の発表条件を緩和する(発表回数を増やす)方がよいとする回答者が60.5%
- ただし明確に「緩和すべき」は17.6%

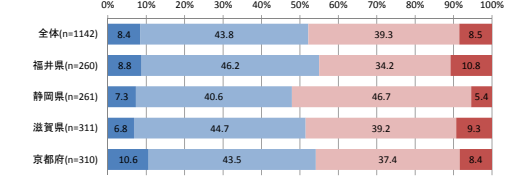
大雨特別警報発表時の対応意向

現在お住まいの地域に大雨特別警報が発表されたことを知った時、次のような行動を実行すると思いますか

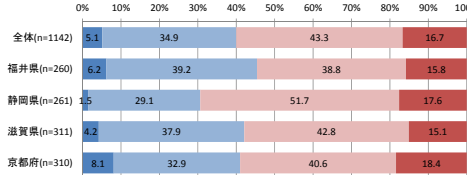
自家用車移動



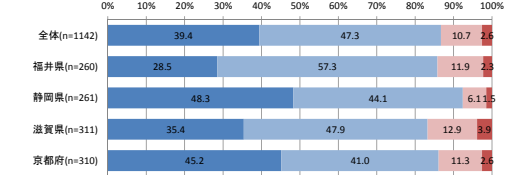
避難所避難



避難所以外への避難



外出中止・変更

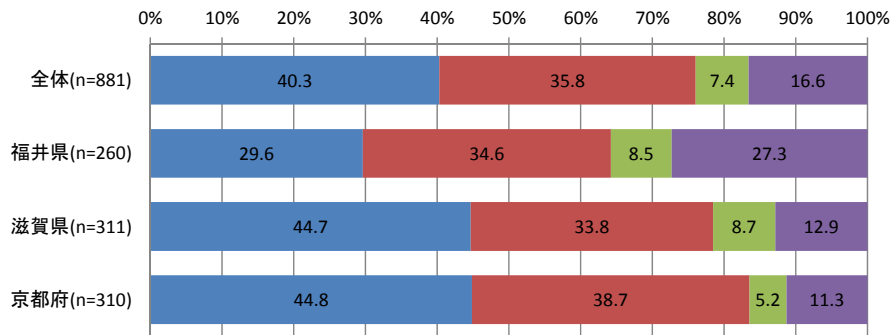


- 確実に実行する
- 実行する可能性はある
- 実行する可能性は低い
- 確実に実行しない

- 大雨特別警報発表時に、自家用車移動、避難所避難、避難所以外への避難の対応行動をとる意向を持つ回答者は4~5割、外出中止・変更は8割以上

9月16日の大雨特別警報発表についての認知

9月16日(月)午前5時5分に、気象庁からお住まいの地域に対して、大雨特別警報という情報が発表されました。9月16日に、大雨特別警報が出たことを知っていましたか

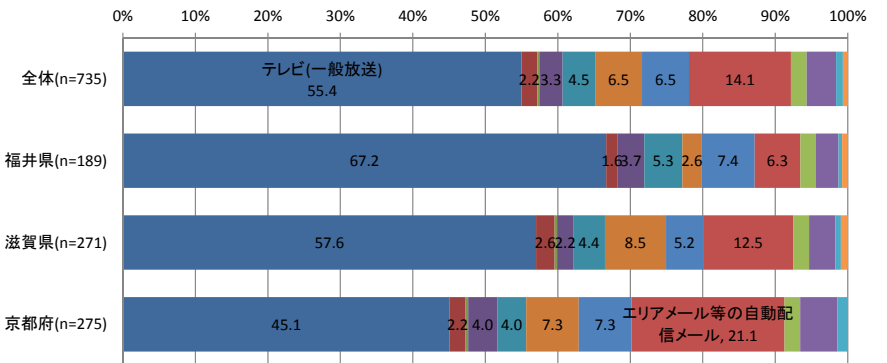


- 発表直後(9月16日午前6時頃まで)に知った
- 9月16日午前6時過ぎ~正午頃に知った
- 9月16日正午より後に知った
- このアンケートで初めて知った

- 9月16日の大雨特別警報を発表直後に認知した回答者は40.3%
- 福井県では直後の認知は29.6%とやや低く、発表自体を知らなかった回答者が27.3%

9月16日の大雨特別警報を入手したメディア

9月16日に大雨特別警報が出たことを一番最初に知ったメディアは何でしたか



- テレビ(一般放送)
- テレビ(データ放送)
- テレビ(ワンセグ)
- ラジオ
- インターネット(パソコンから)
- インターネット(携帯・スマホから)
- 登録制の災害情報メール
- エリアメール等の自動配信メール
- 行政機関からの放送
- 家族や近所の人からの口頭連絡

- 大雨特別警報発表をいちばん最初に知ったメディアはテレビの55.4%が最多。
- テレビの率は福井67.2%、滋賀57.6%、京都45.1%。京都ではエリアメールが21.1%。

9月16日の大雨特別警報発表に対する評価

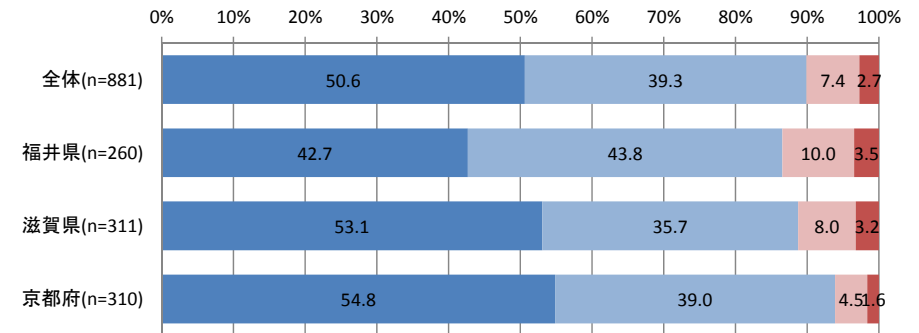
9月16日の台風18号による主な被害は次のような状況でした。
(10月11日現在の消防庁資料による)

- 福井県**
死者1人、住家の全壊・半壊6棟、床上浸水67棟
- 滋賀県**
死者1人、住家の全壊・半壊93棟、床上浸水212棟
- 京都府**
死者0人、住家の全壊・半壊6棟、床上浸水1890棟

今回、この規模の災害に対して、お住まいの地域に大雨特別警報が発表されたことについて、あなたはどのように思いますか。

9月16日の大雨特別警報発表に対する評価

今回、この規模の災害に対して、お住まいの地域に大雨特別警報が発表されたことについて、あなたはどのように思いますか。



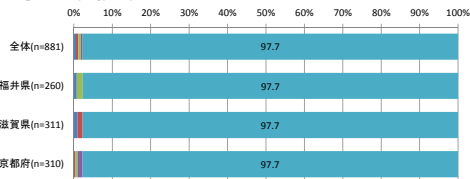
- 適切だった
- どちらかといえば適切だった
- どちらかといえば適切でなかった
- 適切でなかった

- 今回の規模の災害時に大雨特別警報が出たことは89.9%が「適切」「どちらかといえば適切」と評価。「適切」だけでも50.6%.
- 福井県の「適切だった」がやや低いですが、それでも42.7%

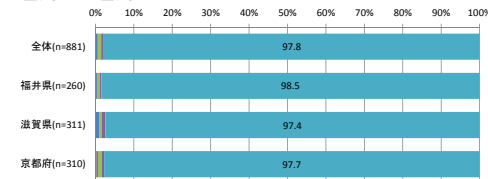
9月16日の大雨特別警報発表時の実際の対応

9月15日から16日にかけて、次のような行動を行いましたか。それぞれ、最初に行った時間帯をひとつ選んでください

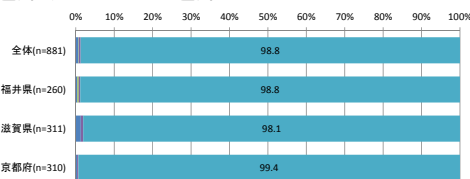
自家用車移動



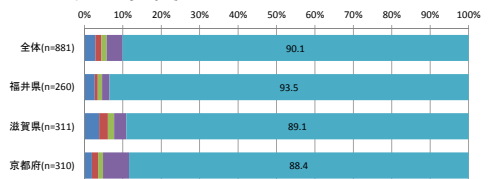
避難所避難



避難所以外への避難



外出中止・変更



- 15日午後6時より前に行った
- 15日午後6時～16日午前0時までの間に行った
- 16日午前0時過ぎ～16日午前6時までの間に行った
- 16日午前6時より後に行った
- 15～16日の間には行かなかった

- 9月16日の大雨特別警報発表時に、自家用車移動、避難所避難、避難所以外への避難の対応行動を行った回答者は2%以下。[外出中止・変更]でも1割程度。